

可児 公一・植 美雪

建築設計事務所 可児公一植美雪

【作品名】

YUKISHIMO-K

設 計	建築設計事務所 可児公一植美雪
施 工	梶岡建設株式会社
竣 工 日	2016年8月31日

◎建物概要

建 設 地	岡山県津山市	延 床 面 積	115.55㎡
敷 地 面 積	914.30㎡	構 造・規 模	木造平屋建

◎設備面の特記

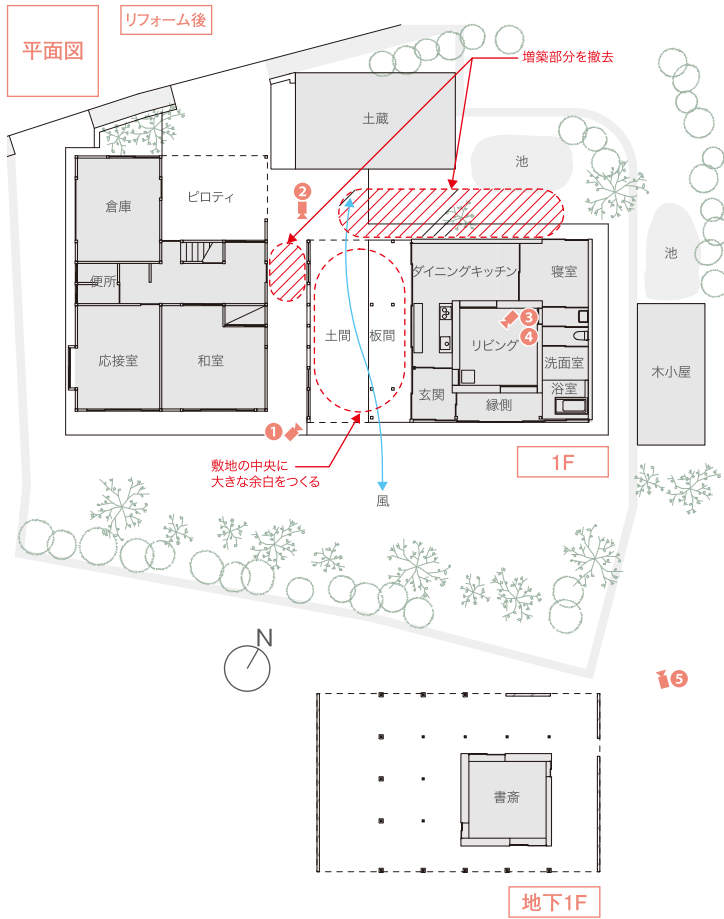
厨 房 機 器	ガスコンロ	
給 湯 機 器	エコジョーズ	
冷暖房機器	エアコン	床暖房(電気ヒーター式)



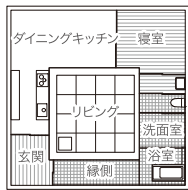
before



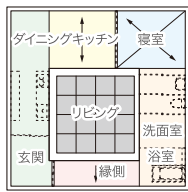
after



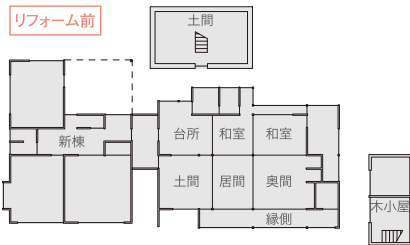
床の仕上げと天井形状が、部屋の単位を超えて、それぞれ独立して続く。



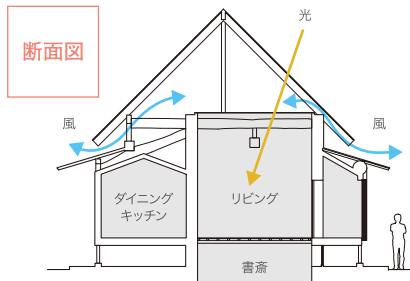
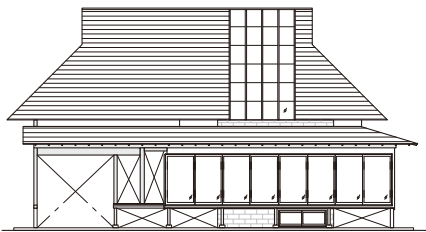
床仕上げ図



天井伏図



立面図



断面図



①②既存の枠組みは残し、大屋根の下に新たな土間と板間を設けた。土間と板間による外部空間は、敷地内に新たな風の流れを生み出す。普段は、農作業や立ち話の空間として、孫たちが帰省したときにはキッチンを大きく開きバーベキューをするなど、昔と今をつなぐ空間になっている。



③④内部で唯一既存の梁が見られるリビング。ガラス天井とし、ガラス屋根からの光をそのまま取り入れることで、冬季の空調にかかるエネルギーを削減。また、日差しの強い夏季はオーニングを引き、ガラス屋根とオーニングの間にこもった熱気を換気扇で外部へ排気。省エネルギー性を実現している。

設計コンセプト

岡山の山間部、築120年を超える古民家の改修計画。施主は60代の夫婦で、大きくて古いこの家を持て余していた。母屋はこの地域に多く残る茅葺き屋根にトタンを被せて生き永らえてきた。敷地内にはこの母屋の他に30年前に建てられた住宅、土蔵、木小屋と呼ばれる倉庫が建っており、広い敷地にもかかわらずとても窮屈な状態であった。改修するにあたり、窮屈な敷地に余白を取り戻すことが必要だと考え、同時に今の時代に先人の遺したこの家を改修する意味を考えた。現状、この家は時代や家族の変化に伴い増改築が繰り返され新築当時の潔さは無く、ぶよぶよと余計なものがまわりついているように思えた。過去の新築当時の姿に似せて、綺麗に取り

繕っていくのではまた同じく余計なものがつき、根本的な解決にはならない。そこで私達は、長い年月をかけてまわりついたものを取り払い、新築当時の軸組まで戻す事とした。120年前からそこにあったこの家は、もはや敷地の環境そのものであり、その環境の中に、今必要とされているボリュームを置いていく。また、古民家らしさや木造らしさとらわれ、細かく全体を統合していくのではなく、この強大なコンテキストの中においては、天井、壁、床が、それぞれの正しさを自分勝手に主張したとしても、ひとつの統一性が生まれるのではないかと考えた。古民家の廉価版ではなく、この場所そのものが今にふさわしい姿になる事をめざした。

審査委員講評

古民家を軸組だけ残し、その状態を敷地条件としてスタートした建築。広い土間板間を残し、屋根の一部をガラスとして、口の字型の光に満ちた住空間を軸組の中に入れ込んだ住宅。改修や改装といった文字通りの概念ではなく、歴史を環境として抱え直した意欲的な作品です。

⑤茅葺き屋根は、防災上も維持の面でも、個人で維持管理し続けるのは難しいため、金属屋根としたが、地域との調和を考え、建物外形は既存のカタチを残した。リフォームにあたり、ガラスやアルミサッシ、タイルやフレキシブルボードなど、新しい材料を多く使用したが、古民家のもつ形の力と、岡山の山間部に残る銀色トタンの屋根色を踏襲したことで地域との調和を図った。

